

2020年度(令和2年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月15日

事業所名 あある

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	1	中高生向けに身体が大きい児童が多いが、席配置や椅子などでスペースの活用を工夫している。	中高生利用が多いため、10人を超えると手狭に感じる、密になってしまうなどの意見があった。窓の換気などで対応しているが、3密対策が今後更なる課題となるため、改善していきたい。
	2 職員の配置数は適切である	1	2	2	個別対応児が多い時は適正配置人数を超える配置をしている。	現場指導員3名を基本配置としているが、足りないと感じる職員が多い模様。職員のスキルアップと課題の洗い出しをし、適切な対処を講じていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2	階段昇降時は指導員を配置、声かけで安全に配慮している。	階段があるので安全対策はしているが、より安全に配慮するためのリスクマネジメントを職員一人一人が高次元でできるように研修などを増やしていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	1	2	ミーティングは毎日行ない、その日の活動だけでなく、児童対応についても協議している。	会議への参加率の低さ、内容の共有意識の低さが課題ではある。参画意識を高めるため、業務分担を明確にしていく予定。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	1	アンケートを基に会議などで改善を図るようにしていく。	保護者からのアンケートをまとめるだけでなく、共有して課題を洗い出し、改善に努めていくことを目標、スケジュール化して対応していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	1	会社HPで公表している	公表していることを知らない職員がいるため、職員会議等で周知していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	1	非該当	今後第三者評価を入れるかどうかについても検討をしていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	草加市内の障害児通所支援施設連絡会で毎年職員向けレベルアップ研修を年間で開催しているため、それに参加している。	次年度は、施設内での勉強会を増やしていくことで、より現場に即した技術、知識を身に付けるようにしていく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	アセスメントシートの活用により、詳細なアセスメントを行なうことが前提になっている。	個別支援計画の的を絞ることで、より児童の課題や長所に目を向ける内容で作成できるよう、ケース会議などを増やしていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	3	0	日常生活だけでなく、健康状態、学校生活、得意不得意などの内容についても記入してもらえる内容のシートを使用している。	標準化されたアセスメントシートを活用しているが、今後は自社開発アプリによるアセスメントツールの使用も検討している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	1	活動プログラムの立案は主に児発管、常勤職員で組み立てている。	非常勤職員にもプログラムの立案に参画してもらうことが望ましいので、日々のミーティングなどを活用し週間プログラムを立てて行くが、プログラム自体もマニュアル化して、繰り返し行う中で進化させていけるものになりたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	週間ごとに作業活動、SST活動を隔週で行なっている。また、様々な作業種を提供できるように、内容を偏らせ内容ミーティングを実施している。	上記同様、活動をマニュアル化しつつ作業活動、手先を鍛える遊びやゲーム、SST等カテゴリー化する。

2020年度(令和2年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	1	平日はSST、作業活動を隔週で行ない、休日は公園などでも身体を動かす機会を設け、就労と連携して模擬実習のように大人に混じって作業をする機会を設けている。	児童個々の支援計画に即した活動内容ではあるが、きめ細やかなところまでは詰めていない現状ではあるため、支援計画の理解を職員間で進め、より個々人の課題に即した内容で活動を設定できるように努める。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	0	月次報告を作成することでモニタリングの会議を開かなくても児童の様子が見えるようにしている。	必要に応じてケース会議、モニタリング会議などを行ない、また月次報告を作成することで支援計画を更新する際に意識できるようにしているが、全員の意見が反映されているというよりは児発管や主となる職員の意見がほとんどであるため、職員全員が支援計画を常に意識できるようにしていくことが課題である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	0	連絡ノートでの共有と時間が取れる取れる時は入念にミーティングをしている。	送迎の時間がまばらになる時期や長期休みの際はミーティングを行えない状況となることが多く、連絡ノートを活用して引継ぎなどができるようにしているが、朝礼、終礼を行なえる環境設定をしていくことが課題である。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	3	1	送迎の関係で全員では行なえないため、残った職員が連絡ノートで申し送りを残しておくようにしている。	上記で述べたように朝礼、終礼の仕方、あり方を今後の課題として考えていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	1	経過記録は日々残っており、月次報告書に連動させているため、支援計画更新時に利用している。	細かい所での支援について、経過記録を参照しているというより、ミーティング、連絡ノートで共有しているためより望ましい方法で検証できるようにしていきたい。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1	4	0	毎月1回の会議でケース会議を実施し、支援計画の更新に役立てている。	月次報告書を月に1回モニタリング会議を設けてモニタリング用の記録を残すようにしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	4	0	就労特化型を主としているため、総則に則った活動全てを取り入れているわけではないが、創作活動や運動の機会などは設けている。	管理者、児童発達支援管理責任者以外の職員のガイドライン理解が課題となっているため、それについての勉強会なども企画していきたい。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2	0	担当者会議は基本的には児童発達支援管理責任者が参加しており、会議前には最近の状況等を職員と確認している。	引き続き、適宜主となる職員が担当していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0	送迎時に申し送り等を受け、職員間や保護者への共有をしている。	引き続き適宜学校とも連絡を取るなどして対応していく。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	1	非該当		
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	4	1	非該当	就労特化型デイサービスのため、対象児童を主に中高生としているので児童発達支援事業所等との連携は行っていない。	

2020年度(令和2年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	0	全てではないが、提供するよう努めている。	移行先の引継ぎは主に移行先事業所、学校間でなされており、放デイ事業所として出席を求められたことはこれまでにないが、機会があれば行ないたいと思っているので、保護者様の協力が必要な事項かと思われる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	1	相談支援事業所との連携は行なっているが、専門機関とは専門的研修等を通じている程度に留まっている。	これまで児童発達支援センターや発達障害者支援センターからは小学生までを対象としている助言、指導の申し込み案内をもらっていたが、対象外となるため研修以外の活用をしたことが無いため、中高生でも利用が可能であれば、助言などの機会も設けたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	2	社会資源を利用する機会は設けている。	今後は社会資源のより積極的な利用と交流などを視野に入りたいが、コロナ禍のため慎重に判断していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	1	草加市の障害児通所支援施設連絡会への加入や参加をしている。	研修も実施してくれている機関のため、毎年必ず加盟して研修等も利用している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	電子媒体を使った連絡帳で常にやり取りなどをしやすくしている。	その他にも面談や送迎などでコミュニケーションを取り、児童の発達について共通理解ができるようにしているため、今後も行ないたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	1	ペアレントトレーニング自体は行なっていないが、児童の発達についての困りごとなどには面談や連絡帳を通じて常にやり取りや助言をしている。	基本は保護者から質問やアドバイスを求められた時にお応えしているというため、今後は積極的に思っていることや共有したいことをこちらから提案するなどのことも検討していければと思う。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	3	0	契約時に運営規程については一通り説明し、質問などがあれば答えている。	契約書別紙の作成で利用料についてはより分かりやすくしておくことも検討したい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2	0	基本的にあ児童発達支援管理責任者がこの役割を担っている。	面談時や連絡帳等で質問があれば答えているため、今後も随時質問等は受けられるようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	1	未開催	次年度は年2回の保護者会を企画し、就労との対抗事業所ということを活かして、実際に就労している本人やその保護者との交流などが児童の保護者と取る機会を作っていく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	重要事項説明書等では窓口の説明をし、直接事業所に来ることにに関しては随時対応している。	できる限り問題などがあつた際に速やかに対応できるよう事業所としての態勢は整えているため、引き続き真摯に対応したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	1	会報自体は未発行だが、電子媒体での連絡帳を使用することで日々の活動は写真で伝えることができています。	次年度は毎月1回広報誌を作成して、事業所情報をより詳細に伝えていく工夫をしていく予定。
35	個人情報に十分注意している	5	0	0	個人情報の取り扱いについては、日頃から持ち出しのルール等を設けている。	個人情報の誓約書等は従業員にも取っており、職務違反となるような行為の無いよう、日頃からルールを設けるなどして取り扱いには注意をしている。	

2020年度(令和2年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	0	視覚化や個別説明などを行ない、各児童の特性に合った支援を洗濯できるようにミーティングなどで確認をしている。	引き続き、特性に合った支援に寄り添えるようにアセスメントをしっかりと行ない、情報共有をして、児童に混乱のないよう努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	1	社会資源の活用はしている。	地域との交流は社会資源の活用には留まっているため、イベントなどで交流の機会を設けていくことを検討したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	0	各種書類は作成している。	保護者への周知については、問い合わせがあった際にはお見せするようにはしておりますが、その点についても周知をするようにしていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	0	年2回の避難訓練、と通報訓練を実施している。	次年度は防災意識の高まりも受け、月に1回は防災訓練を実施し、職員が避難誘導をスムーズに行なえるようにし、児童にも防災意識を高めてもらう機会を設ける。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	0	年に1回虐待防止の研修もしくは勉強会を行ない、職員に周知している。	引き続き年1回以上の研修等を導入し、虐待防止につながる知識や声掛けも仕方によっては虐待になることもあるなどの共通認識を持てるようにしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	0	身体拘束に該当する児童がいない。	今後身体拘束に当たるケースが出た際には個別支援計画にて同意を取るようになっていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	1	食物アレルギーについてはアセスメント時に必ず聞き取りをし、児童の一覧に手職員にも周知している。	医師の指示所はいただいていないため、今後必要のある児童については保護者様にご協力いただき、万全に対処できるよう整えておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0	ヒヤリハットを月ごとに集計して、会議にて検証などを行ない、再発防止に努めている。	引き続きリスクマネジメント研修も適宜行い、事故防止に努める。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。